

海外レポート

シンガポール

～シンガポールにカジノがオープン～

(財)自治体国際化協会シンガポール事務所 有満 みゆき



シンガポールでは今春、国内初の2つのカジノ総合リゾートがソフト・オープン、または準備中である。

1つはセントーサ島で開業する「リゾート・ワールド・セントーサ」で、既にカジノを含む施設の一部は開業しており、もう1つはシンガポールの中心部であるマリーナ湾地区で開業する「マリーナ・ベイ・サンズ」である。こちらは4月の開業に向けて急ピッチで建設工事が進められている。

今回は、シンガポールの今後の観光の将来を左右されているカジノについて紹介したい。

シンガポールのカジノ総合リゾート

名称	リゾート・ワールド・セントーサ	マリーナ・ベイ・サンズ
運営会社	マレーシア企業ゲンティン	米ラスベガス・サンズ
場所	南部セントーサ島	中心部マリーナ地区
敷地面積	49ヘクタール	15.5ヘクタール
投資予定額	44億ドル	55億ドル
宿泊施設	ホテル6棟(約1800室)	ホテル3棟(約2500室)
娯楽施設	テーマパーク、水族館 など	空中庭園、美術館 など

総合リゾート「リゾート・ワールド・セントーサ」

シンガポール南部にあるセントーサ島に建設された総合リゾートで、開発はマレーシアの「ゲンティン・グループ」が手がけている。投資予定額は約44億ドル(約4,000億円)で、1月20日には6つの建設予定のホテル(合計1,800室)のうち4件のホテルが先行開業している。メインとなるカジノについては、シンガポール政府機関であるカジノ規制局(CRA)よりようやく2月6日にカジノ事業免許が発行され、旧正月の初日だった2月14日にオープンし、シンガポール初の合法的カジノの誕生となった。先行開業した4つのホテルのうちの1つフェスティブ・ホテルの地下、延べ床面積1万5,000平方メートルに定番のロットマシン、ルーレットや「バカラ」など15種類以上のゲームを揃え、他のカジノ先進地との競争に挑む。



カジノのオープン初日には、多数の入場希望者が詰めかけたため、15日未明には2時間半にわたって新規入場を停止する措置をとった。旧正月休みであった14、15両日のカジノ来場者数は3万5000人を上回り、セントーサ島全体の入場者数は14日は7万5000人となり、1日あたりの来

場者数の過去最高を更新するとともに、昨年旧正月初日の来場者数を約 20% 上回った。

同リゾートは、メインターゲットを家族連れに設定しており、カジノとともに、ユニバーサル・スタジオ・シンガポール (USS) を客寄せの目玉としている。東南アジア初のユニバーサル・スタジオであり、総アトラクション数 24 のうち、18 は世界初またはシンガポール独自のアトラクションになる予定であるということである。USS のオープンは 3 月上旬の予定となっており、入場料は下記のとおりである。

One-Day Pass (1 日券)	大人	子供	シニア
平日 (除外日あり)	66S\$	48S\$	32S\$
週末と除外日	72S\$	52S\$	36S\$

「リゾート・ワールド・セントーサ」の開発を行っている「ゲンティン・グループ」のリム・コックタイ会長は、カジノや USS を含めた施設全体で、初年度 1300 万人の来場者を見込んでいるとのことである。

総合リゾート「マリーナ・ベイ・サンズ」

シンガポールの中心部マリーナ・ベイ地区に建設された総合リゾートで、開発は米リゾート運営大手ラスベガス・サンズが手がけている。同リゾートはカジノに加え、高級ホテル、博物館、ショッピングモール、コンベンション施設等からなる。当初は 2008 年 12 月までに開業する計画であったが、雨期の悪天候による建設工事の遅延や建設資材・労働者の調達難等で何度も開業目標時期が延期されており、現在のところは今年 4 月 27 日にカジノ施設と展示会議施設、一部商業施設、レストラン、ホテル客室 (合計 2500 室) のうち 963 室の営業を開始する。さらに 6 月 23 日に予定しているグランドオープンで、55 階建の超高層ホテル 3 棟の屋上を結ぶ全長 340m の空中庭園「スカイパーク」と、マリーナ湾沿いのイベント広場などを追加開業し、10 月から年末にかけての 2 つの大型劇場と美術館を順次開業する予定である。



2004 年 3 月にカジノ施設を含む総合リゾート施設の解禁方針を策定し、翌 2005 年に 2 か所のカジノ総合リゾートの建設を認める方針を決定し、やっと今春 2 か所のカジノ総合リゾートが開業する。カジノ関連企業に加え、観光や交通業界にも「カジノ効果」が波及すると期待されており、シンガポール政府もカジノ開業に伴う外国人観光客誘致に大きな期待を示している。

カジノ開業を歓迎する一方で、シンガポール国民がギャンブル中毒に陥ったり、カジノが資金洗浄 (マネーロンダリング) に悪用されたりしないよう、様々な予防策を講じている。

国民と永住権を持つ外国人に「カジノ入場税」を課し、むやみにシンガポール国民がカジノに立ち入ることがないように規制している。1 日であれば 100S\$ (約 6500 円)、1 年分の一括払いでは 2000S\$ (約 13 万円) を課税し、敷居を高くしている。また、カジノ施設に入場する際には入場当日の損失上限額を自己申告し、上限額に達した場合にはカジノを退場するか、賭けを続ける前に専門カウンセラーに会うようにする仕組みを導入するとのことである。カジノ内には現金自動預払機 (ATM) を設置せず、追加の現金を引き出せないようになっている。

既にカジノ中毒の国民には、本人や家族の申請で、政府が入場を禁止する仕組みを準備し、昨年中に生活保護受給者と破産者を含め約 2 万 9000 人を入場禁止者に指定し、カジノ施設に通知している。

また、シンガポール政府は資金洗浄対策も欠かさず、1 回 5000～1 万 S\$（約 32 万 5000～65 万円）の入出金・預託を行う大口のカジノ利用者について、本人確認や当局への報告、記録保存をカジノ施設に義務付け、不審な取引に目を光らせている。

このように、カジノには期待が大きい一方、犯罪や墮落の温床になるのではないかとの不安もある。シンガポール警察は、カジノに関連する犯罪を専門に取り扱うカジノ犯罪捜査局（C C I B）を、犯罪捜査部専門犯罪課内に設置し、これまで米ラスベガスや中国マカオなどのカジノの本場で訓練を積んだ部員 20～30 人がカジノ規制局と緊密に連携をとりながらカジノ内の偽装行為やゲーム機器の不法操作などを取り締まるとのことである。

世界的な経済危機や新型インフルエンザの影響もあり、シンガポールへの外国人観光客数は 2 年連続で減少しており、それだけにカジノへの期待は大きい。今後の行方に注目したい。

【(財)自治体国際化協会シンガポール事務所のご案内】

住所：CLAIR SINGAPORE , 6 BATTERY ROAD, # 31-02, Singapore 049909

電話：(65)6224-7927 FAX：(65)6224-8376

このコーナーでは、鹿児島県の海外駐在員や海外派遣職員の方々のフレッシュなレポートを掲載しています。

レポートに関する皆様からのご意見・ご質問・ご要望等をおまちしております。